

春まき小麦「ハルユタカ」種子の品質向上

～ 江別市種子小麦生産部会の取り組み ～

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター 本所

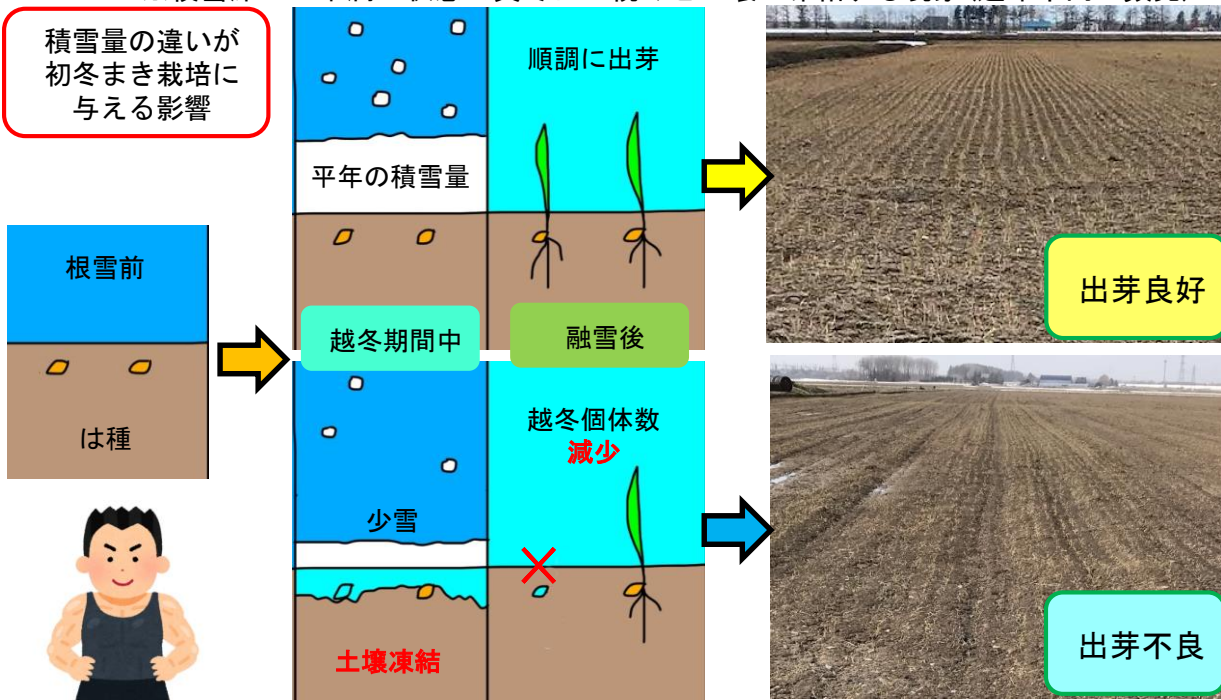
1 課題設定の背景 *****

対象：江別市採種小麦生産部会農業者6戸

近年**少雪年**が増加 → **土壤凍結※**による**初冬まき栽培における越冬性低下**が懸念

※積雪深15cm未満の状態で見冬が続くと土壤が凍結する現象(近年市内で頻発)

積雪量の違いが
初冬まき栽培に
与える影響



強い種子(干粒重40g 子実タンパク11%以上)が求められる

2 活動の経過 *****

R3年3月
JA、江別市種子小麦生産部会
と本課題を共有

R3年止葉期以降 止葉の葉色を測定
→葉色の低い場合は品質低下防止のため、尿素
散布(1.5～2.0%液)をJAを通じて要請

※以下、葉色とはSPAD計で測定した葉色値を示す



葉色が薄いと干粒重やタンパク
値が低下するんだね～



実際の葉を使った葉色見本



要請した全員が実施!!

3 活動の成果 *****

R3年

<取組状況>
 6名中4名に葉面散布を要請

<葉色の変化>
 葉面散布した4名中**3名**で
葉色が高まった (図1)

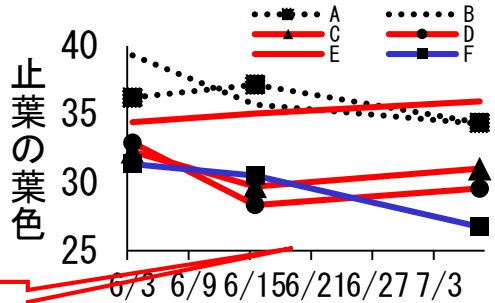


図1 葉色の推移 (R3年)
 図中実線=葉面散布を実施した農業者

R4年

改善 葉色が高まらないケースが!

<改善事項>
 特に葉色の低いほ場には**追肥**を実施

<葉色の変化>
 全戸全てのほ場で葉色が40以上になった!

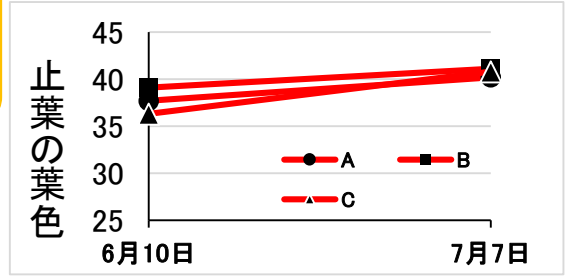


図1 葉色値の推移 (R4年)
 図中実線=葉面散布を実施した農業者

葉色に合わせた施肥管理技術が 定着した

<もたらされた結果>

天候に恵まれず千粒重は落ちたけど...

タンパク値向上
+バラつき抑制

発芽勢向上

→ 強い種子になった

	年度	千粒重	タンパク	発芽勢
部会平均	R4	36.4	<u>13.1</u>	<u>88.8</u>
	R2	38.7	10.4	83.5
偏差 (バラつき)	R4	<u>1.45</u>	<u>1.33</u>	<u>6.6</u>
	R2	1.68	1.69	13.4

種が良くなれば、小麦畑も良くなる!



<今後期待されること>

<一般ほでの栽培管理が容易になる>

- 千粒重のバラつきが少ないので、は種粒数が一定に
- 出芽の斉一化が期待できる
- 生育ムラのない小麦生産ほ場が作れる

4 今後の活動 *****

- ① JA担当者とはほ場巡回、現地指導を継続
- ② 土壌にあわせた栽培管理を推進
- ③ 天候に左右されない小麦づくりの推進